

NPO 法人言語発達障害研究会 第 95 回定例会報告

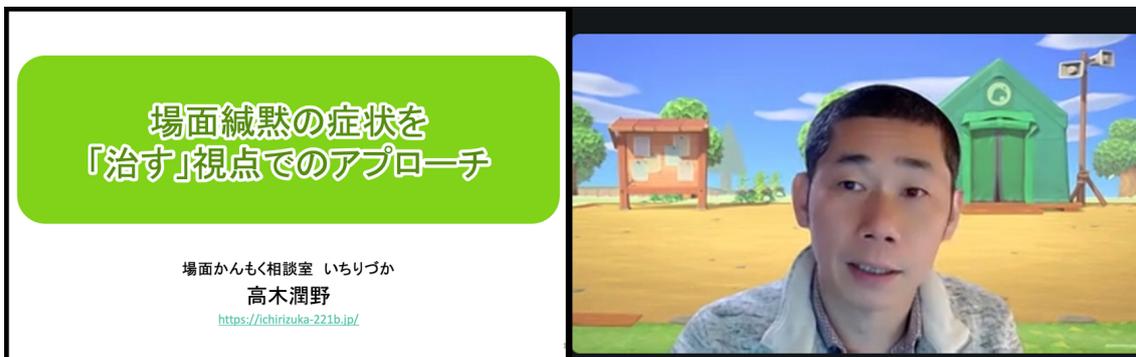
日時：2026 年 1 月 31 日（土）14:00～16:00

場所：オンライン

題名：場面緘黙の症状を「治す」視点でのアプローチ

講師：場面かんもく相談室「いちりづか」代表 高木潤野 氏

第 95 回定例会は、場面かんもく相談室「いちりづか」代表の高木潤野氏を講師にお迎えし、「場面緘黙の症状を『治す』視点でのアプローチ」をテーマにご講演いただきました。ライブ配信には、言語聴覚士、教員、心理職、保育士など 98 名の方々にご参加いただきました。当日はチャットに寄せられた質問にも丁寧にご回答いただき、場面緘黙の概念を再構築し、臨床につながる学びの時間となりました。



ご講演では、話さない状態を「場面緘黙という障害がある」と捉えるのではなく、背景にある要因が人それぞれで異なることを「冰山モデル」から理解して、的確なアセスメントと適切な対応を行うことの重要性が解説されました。生活場面での支援や配慮はもちろん必要ですが、専門職は「治す」視点でかわることが求められ、治療の基本について事例を交えて説明がありました。具体的には、「誰と、どこで、何を」話せるようになりたいか、本人主体で目標や練習方法を考えることや、スモールステップで話せる相手や場所を広げる方法も紹介されました。早期の適切な介入によって、将来の二次障害をいかに防ぐかについて、強いインパクトをもって論じられました。

参加者からは、これまで対応に迷いを感じていたが、具体的な指針を得られた、もっと講演を聞きたかった、との声が多く寄せられました。

本講演を通して、場面緘黙の的確な理解と適切な対応の両面を深めることができました。また、支援する専門職の役割は、子ども一人ひとりの「話したい」という意思を支え、学校生活や社会で対面での会話を可能にすることであると認識する機会となりました。

以下に参加者の声の一部を紹介します。

<参加者の声>

- 「場面緘黙症状は治せる」とはっきり断言されているのが心強く感じました。治療の流れもイメージできました。
- 「積極的に治す」という視点は私にとっては衝撃的でした。今まで学んできたこととは全く違いました。お話も実践的で分かりやすかったです。次回、幼児期の話を中心にもう一度お願いしたいです。
- 場面緘黙の相談に対して、自分が「やってはいけないこと」をしていたことを知って、猛反省です。具体的な練習の方法のイメージがつかめたのでとても参考になりました。
- 「緘黙は治せる」という先生のお話、心強く感じるとともに自分の責任を重く感じます。具体的な練習計画は非常にわかりやすかったです。気持ちを新たに臨床に臨みたいと思います。
- 場面緘黙はきちんと治せると学ぶことができました。環境設定だけにならないよう、責任をもって子どもたちと話していこうと思います。
- 話せるようになるための練習の第一歩として、「誰と話したいか」「どんなときに話したいか」を本人と一緒に明確にし、ターゲットを設定していくことが特に重要であると感じました。